

令和元年6月25日現在

機関番号：28002

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11861

研究課題名(和文) 島しょ看護学の学習指導書作成に関する研究

研究課題名(英文) A study for creating learning instruction of insularity health and nursing

研究代表者

野口 美和子 (Noguchi, Miwako)

沖縄県立看護大学・保健看護学研究科・名誉教授

研究者番号：10070682

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：島しょ看護学の科目は、教育内容項目の13分野を確定し、学士課程、博士前期課程、博士後期課程に分類し、課程ごとの教育内容項目及び教育内容を体系化した。科目を設定し、教育目標、授業形態、授業時間、教育方法を検討した。

島しょ看護学学習指導書(案)の目次は、日本の島しょ、学士課程(島しょ看護学、島しょ看護学実習)、博士前期課程(島しょ看護特論、島しょ看護演習、島しょ看護実習、島しょ看護特別研究)、博士後期課程(島しょ看護特論、島しょ看護政策・管理、島しょ特別研究)で構成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ルーラル看護は、諸外国では研究され著書もあり、ルーラル看護教育が行われている。我が国のルーラル看護およびその一部としての島しょ看護の教育・研究は緒についたばかりである。島しょ地域での健康課題の捉え方や実践を集積し、島しょ看護の教育カリキュラムを教育課程ごと(学士課程、修士課程、博士課程)に確定した。そして、「島しょ看護学学習指導書」として、教育内容項目及び教育内容を体系化したことから、島しょ看護教育の推進が期待できる。

日本ルーラルナーシング学会には、これまでの研究で明らかになった成果を提案し、「ルーラル看護」の教科書作成に活用する準備をすすめている。

研究成果の概要(英文)： As subjects of insularity nursing, we confirmed 13 educational contents, and classified them into undergraduate course, master's course, and doctoral course. Systematize the subjects in each classification. Considered subjects, educational goals, styles of education, and educational methods.

The table of contents of learning instruction of insularity health and nursing is, Japanese islands, undergraduate course(insularity nursing, insularity nursing practicum), master's course (insularity nursing theory, insularity nursing seminar, insularity nursing practicum, insularity nursing special study), doctoral course(insularity nursing theory, insularity nursing policy and management, insularity nursing special study).

研究分野：島しょ看護学

キーワード：島しょ看護学 学習指導書 教育内容項目 教育内容 学士課程 博士前期課程 博士後期課程

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

ルーラル(陸続きのへき地)看護は、オーストラリアやニュージーランド、カナダなどで研究され、Rural Nursing Aspects of Practice(2008年)の著書もあり、ルーラル看護の教育が行われている。島嶼(海に囲まれた土地)看護は、ルーラルの一部「Islands」であり、課題として、島嶼学的アプローチによる健康課題の捉え方や島嶼地域での看護実践を集積し、教育カリキュラムに反映できるような島嶼研究の必要性を述べている。

わが国の島嶼看護研究は、「へき地(過疎地域、豪雪地帯、山村、離島等)における看護の研究を推進し、わが国におけるへき地看護学を確立・発展させること」を目的とした日本ルーラルナーシング学会の創設(2005年 初代理事長 野口美和子)により研究成果が集積されている。しかし、ルーラルの一部としての島嶼看護の教育・研究は緒についたばかりである。

野口(沖縄県立看護大学学長)は、2008年から3年間、前述の現状打破に向け文部科学省の競争的資金を獲得し、島嶼看護教育に組織的に取り組んだ。学士課程では、「島しょ環境を生かして学ぶ保健看護の教育実践」(学部GP)、大学院(博士前期課程、博士後期課程)では、「島しょ看護の高度実践指導者の育成」(大学院GP)である。その取り組みの成果として、沖縄県立看護大学では、学士課程の臨地実習で、「島嶼モデル型臨地実習」を開発し、特に「生活者の視点」と「協働連携」を住民ボランティアに支えられながら学んでいる。大学院教育では、大学院GP終了後に博士前期課程と後期課程で「島しょ保健看護」分野を新設し、島嶼看護の高度実践者や研究者を継続的な育成を開始している。

地理的特性とともに文化的特性が強く保持されている島しょは、現代の看護上の課題を抱えている場であり、「島しょ看護学」を確立する必要性を痛感し、2009年から「看護学士課程における島しょ看護学教育の効果と課題に関する研究」(課題番号 21592922)、継続研究として2012年から「島しょ看護学教育内容の体系化に関する研究」(課題番号 24593456)の研究代表者として島しょ看護学の確立に向け継続的に研究している。

島しょ看護学の確立に向けて、これまでの研究成果は日本ルーラルナーシング学会に報告し、ルーラル看護の教育・研究・実践者から意見やコメントを聴取し、同時に、日本ルーラルナーシング学会には、これまでの研究で明らかになった成果を提案し、「ルーラル看護」の教科書作成に活用する準備をすすめている。

「看護学士課程における島しょ保健看護教育の効果と課題に関する研究」(2009年~2011年)では、島しょ看護教育の効果として、学生には【島嶼看護の魅力と専門性の理解】、【看護職者としての素質の向上】など、教員には【教育力・看護力の陶冶】、【島嶼実習の価値と理解】などがあつた。また、学外の看護専門職者、地域住民にも効果をもたらすと評価していた。しかし、島しょ看護教育の推進のために【島嶼看護学の確立】、【カリキュラムの位置づけ】、【島嶼での効果的な学びのための教育方法の工夫】などが挙げられ、教育内容を体系的に整理することが課題であることがわかつた。

「島しょ看護学教育内容の体系化に関する研究」(2012年~2014年)では、島しょ看護学の教育内容を整理した。教育内容は、【島嶼論】、【島嶼看護上の課題と支援方法】、【多職種連携・協働活動】、【遠隔通信機器等の活用】、【島嶼地域文化看護論】、【島嶼看護論】、【島嶼看護教育】、【島嶼看護研究の課題と方法】など13項目に整理できた。これらを看護学教育の3つの教育レベル(学士課程、博士前期課程、博士後期課程)の教育目標(人材養成目標)に照らして配置した。これに基づき、教育目標・方法を検討した。

島しょ看護学教育における効果を自覚している教員でも、島しょ看護学の教育に一步踏み出しにくい実態が、「看護学士課程における島しょ保健看護教育の効果と課題に関する研究」によ

って示されていた。「島しょ看護学教育内容の体系化に関する研究」では、島嶼看護学の教育内容を提示することはできたが、島しょ看護学の教育の普及推進のためには、テキストではなく、各大学、各看護教員が必要や考え方に応じ、島しょ看護教育に着手しやすいように、カリキュラムの立案やシラバス、指導案、教材作成の各教育活動段階に活用できる学習指導書を作成することが求められると考えられた。

したがって、開発すべき指導書は、それぞれの教育機関での島しょ看護学の位置づけに柔軟に対応できるものでなければならず、指導書のコンテンツとしては、具体的で、かつ各大学の身近な島しょ地区を念頭において活用できるものであることが求められることから、指導書の内容構成に工夫・研究が必要であると考えられた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、島嶼看護学の普及推進のために、看護学教育の3つの教育レベル(学士課程、博士前期課程、博士後期課程)の教育目標(人材養成目標)に照らして、「島しょ看護学学習指導書」を作成することである。平成24年度～26年度の「島しょ看護学教育内容の体系化に関する研究」(課題番号 24593456)の成果として看護学の各レベルの島しょ看護学の教育プログラム(案)を作成することができた。本研究では、その成果に基づいて、教科目に細分化された内容別に、その概略、指導のポイント、指導方法の例を提示するとともに、参考文献・報告書をリストアップし、構成内容と提示様式を考案し、テキストではなく看護教員のための学習指導書を作成する。

## 3. 研究の方法

本研究2015年度から2017年度の3カ年計画であったが、4カ年計画に変更した。

- 1) 先行研究「島しょ看護学の教育内容の体系化」(科研 24593456)の成果に基づき、「島しょ看護学学習指導書」の構成内容について研究者会議で検討した。
- 2) 学士課程・博士前期課程・博士後期課程の学習指導書(案)の統一性、体系性、活用性を研究者会議で検討整理した。
- 3) 「島しょ看護学学習指導書」(案)について、島嶼看護実践者・研究者会議で意見を聴取し、全体的検討で精選した。

## 4. 研究成果

### 1) 島しょ看護教育の教育内容の体系

学士課程、博士前期課程、博士後期課程の島しょ看護教育内容は、図1に示すとおり体系化した。

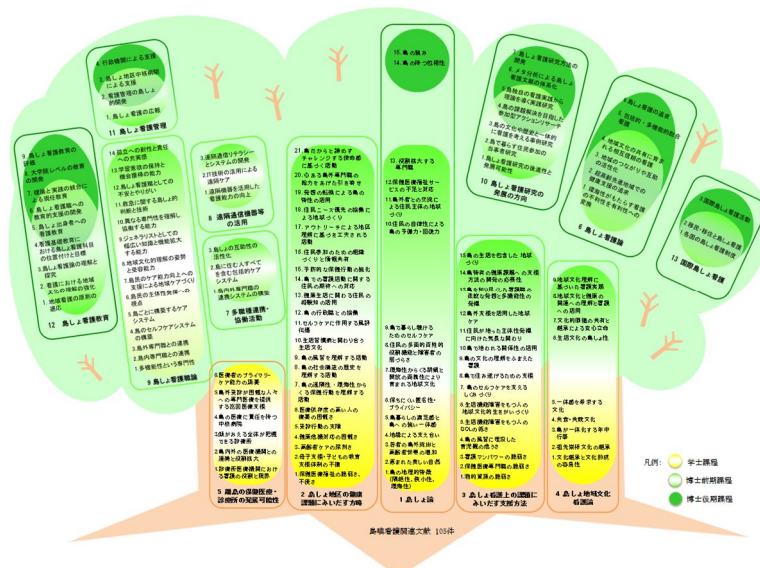


図1 島しょ看護教育の教育内容の体系

## 2) 教育課程ごとの科目配置

教育課程の科目配置は、図 5 に示す通りである。学士課程は、『島しょ看護学』、『島しょ看護学実習』の 2 科目、博士前期課程は、『島しょ看護特論』、『島しょ看護演習』、『島しょ看護実習』、『島しょ看護特別研究』の 4 科目、博士後期課程は、『島しょ看護特論』、『島しょ看護政策・管理』、『島しょ看護特別研究』の 3 科目である。

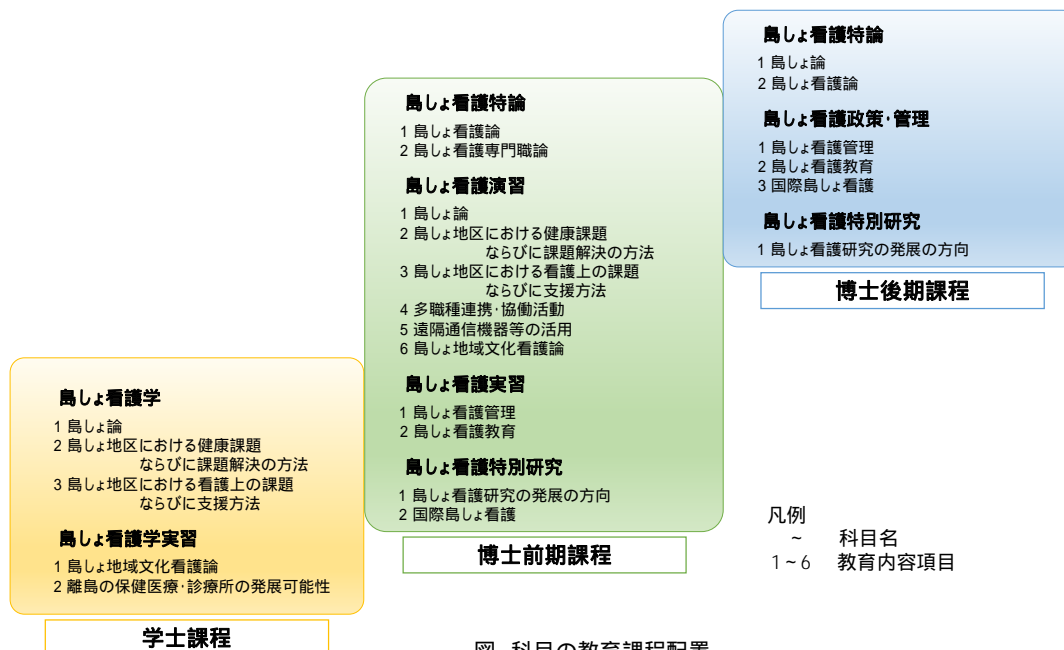


図 5 科目の教育課程配置

図 2 教育課程ごとの科目配置

## 3) 学習指導書(案)の教育内容項目、教育内容、教育目標、授業形態、授業時間、教育方法、教育上のポイント

体系化された学士課程、博士前期課程、博士後期課程に分類された 13 分野の教育内容のうち、学士課程の科目「島しょ看護学」(2 単位 30 時間)の教育内容項目、教育内容、教育目標、授業形態、授業時間、教育方法、教育上のポイントについて学習指導書(案)を作成した。

島しょ看護学の科目の教育内容項目は、島しょ論、島しょ地区における健康課題ならびに課題解決の方法、島しょ地区における看護上の課題ならびに支援方法の 3 つであった。島しょ論の教育内容は、島の地理的特徴、恵まれた美しい自然、若者の島外流出と高齢者世帯の増加、保ちにくい匿名性・プライバシー、環海性からくる閉鎖と開放の両義性により育まれる地域文化などがあった。その教育目標は地理、歴史、文化から来る島の特徴を理解するとし、講義 1 コマで、教育方法はある島を題材にして地理、歴史、文化に関するデータについて、順序性を持って示して解説するとした。

教育上のポイントの例として、「島は狭小性により互いによく知っていることや、隔絶性により人の移動が少ないことで人と人とのつながりが濃厚に維持され「互助(関係者間の助け合い)」が高いという「有利性」がある。また、隔絶性により、共同農作業の「ゆい」や共同売店、公民館活動など住民組織の活動が盛んである。さらに、専門職は主島との往来は不便であることから、生活基盤を島におき、島民と生活を共有しながらその専門性が多面的に活かされている。」と解説をつけた。

### 4) 教育内容項目ごとの教育目標、授業形態、授業時間、教育方法

島しょ看護学の科目の教育内容項目の 13 分野を確定し、学士課程、博士前期課程、博士後期課程に分類し、課程ごとの教育内容項目及び教育内容の体系化を再度検討した後、科目を設定し、教育目標、授業形態、授業時間、教育方法を検討した。例えば、学士課程の島しょ看護学では、

教育内容項目を島しょ論、島しょ地区における健康課題ならびに課題解決の方法、島しょ地区における看護上の課題ならびに支援方法とした。教育目標として、地理、歴史、文化から島の特徴を理解できる、島しょの特徴からもたらされる住民の暮らし方を理解できるなど 5 つ掲げた。授業形態は「講義」で 30 時間 2 単位とした。指導のポイントは、身近な島を取り上げ具体的に説明する。島しょの 3 つの要素（環海性、狭小性、遠隔性）との関連で解説する。写真や図、パワーポイントなどを活用しながらわかりやすく興味が持てるように解説するとした。

#### 5) 学士課程・修士課程・博士課程の学習指導書（案）の統一性、体系性、活用性

共同研究者が作成した資料を研究者会議で持ち寄り、学士課程・修士課程・博士課程の学習指導書（案）の統一性、体系性、活用性を検討した。例えば、学士課程の【島しょ看護学実習】（1 単位 45 時間）の教育内容項目は、＜島しょ地域文化看護論＞と＜離島の保健医療・診療所の発展可能性＞であり、それぞれの共同研究の分担者の資料を持ち寄り、科目の目的と目標を確認しつつ授業形態と教育方法の具体的調整を行った。博士課程の科目【島しょ看護教育】および【島しょ看護管理】については、博士前期課程と博士後期課程の教育内容と教育方法を共同研究者の資料で検討した。

#### 6) 島しょ看護学学習指導書（案）の作成

平成 29 年度に引き続き、平成 30 年度の計画は、島しょ看護学の「学習指導書」完成に向け、島しょ看護実践者・研究者による専門家会議で意見を聴取し、全体的検討で精選することであった。機会を捉えて、研究者チームは繰り返し検討した。

学習指導書は、目次として、はじめに、日本の島しょ、学士課程（島しょ看護学、島しょ看護学実習）、博士前期課程（島しょ看護特論、島しょ看護演習、島しょ看護実習、島しょ看護特別研究）、博士後期課程（島しょ看護特論、島しょ看護政策・管理、島しょ特別研究）で構成した。

例えば、学士課程の島しょ看護学は 2 単位 30 時間とし、目標は、地理、歴史、文化から島の特徴を整理する。島しょの特徴からもたらされる住民の暮らし方を理解できる。等 5 つの目標を設定した。教育項目は、島しょ論、島しょ地区における健康課題ならびに課題解決の方法、島しょ地区における看護上の課題並びに支援方法とした。そして、それぞれの教育内容は、島しょ論では、島の地理的特徴（隔絶性、狭小性、環海性）とその多様性、恵まれた美しい自然、環海性からくる閉鎖と開放の両義性により育まれる地域文化、島への強い一体感、保ちにくい匿名性・プライバシー、重層的な支え合いと個性的な生活のしづらさ、若者の島外流出と高齢者世帯の増加、島民の生業のマルチカルチャー性（百姓性）と障害者の居づらさ、島暮らしの満足感と安定感、島で暮らし続けるためのセルフケアの必要性の 10 項目にした。教育方法は、身近な島を題材にして、地理、歴史、文化、暮らし方、島の健康問題、島の看護上の課題に関するデータについて、順序性をもって示して解説する。講義終了後に、それらを踏まえて地域文化に影響を受ける島しょ看護に関するグループワークを行う。

以上のようなスタイルで、すべての内容を冊子にし、令和元年に開催される日本ルーラルナースング学会員の意見を取り入れ、加筆修正して、印刷製本する。

#### 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：石垣和子

ローマ字氏名：**Kazuko Ishigaki**

所属研究機関名：石川県立看護大学

部局名：看護学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：**80073089**

研究分担者氏名：大湾明美

ローマ字氏名：**Akemi Ohwan**

所属研究機関名：沖縄県立看護大学

部局名：保健看護学研究科

職名：教授

研究者番号（8桁）：**80185404**

研究分担者氏名：北村久美子

ローマ字氏名：**Kumiko Kitamura**

所属研究機関名：旭川医科大学

部局名：その他

職名：名誉教授

研究者番号（8桁）：**40292130**

研究分担者氏名：春山早苗

ローマ字氏名：**Sanae Haruyama**

所属研究機関名：自治医科大学

部局名：看護学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：**00269325**

研究分担者氏名：山崎不二子

ローマ字氏名：**Fujiko Yamasaki**

所属研究機関名：福岡女学院看護大学

部局名：看護学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：**20326482**

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。